早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	森實 駿介（もりざね しゅんすけ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	人間科学研究科　修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 49 回大会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	森實 駿介・小日向 咲来・桂川 泰典
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	愛着スタイルと自傷行為およびその機能との関連

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

非自殺的な自傷行為（以下，自傷行為）とは，自殺の意図を持たず，故意に直接自分の身体を傷つける行為であり，その行為が社会的，文化的に認められていないものを指す（ISSS，2022）。自傷行為は自殺行動とは全く異なる行動であるものの，自殺への重大な危険因子であり，支援が必要である（松本, 2009; Walsh, 2012 松本監訳 2018）。

自傷行為の段階的ケアモデルでは，自傷行為への支援においては代替行動支援や認知療法が挙げられている（Walsh, 2012 松本監訳 2018）。そのうち代替行動支援においては，機能的に等価な代替行動を選定するために，自傷行為の機能を考慮する必要がある。

一方，自傷経験者の特徴や自傷行為の契機として，自傷者にとって重要な他者との人間関係に問題があるといわれており（土居・三宅, 2019），人間関係に影響を及ぼすとされる愛着スタイルと，自傷行為の関連についての研究が行われてきた（Tatnell et al., 2018）。しかし，愛着スタイルと自傷行為の関連を調べた研究は国内では少なく，自傷行為の機能も含め考慮した研究は国内外共に非常に少ない。自傷行為の機能と愛着スタイルの関連を検討することは，その機能が必要とされる背景や自傷者の認知的な特徴のアセスメントにつながる知見が得られ，臨床的に重要な意味を持つと推測される。そこで，愛着スタイルと自傷行為およびその機能との関連について，質問紙を用いて明らかにすることを目的とし，研究を行った。

学会では本研究の成果について報告し，今後の研究の改善点などについて様々な専門家とディスカッションを行い，今後の研究活動における参考となった。

※無断転載禁止